

地理歴史科教育論



第7-8講 学習指導要領のカリキュラム

—4つの教科論を活用して考える—

【個人での取組課題】 30点満点

日本の学習指導要領の改訂の意味を分析しよう

PowerPointには、

地理、日本史、世界史のいずれかに着目して

- ① 現行要領から新要領への変化とその理由とは...
- ② 目標や科目編成、内容構成の特色とは...
- ③ 新しい地理歴史科を評価すると...

「〇点/100点です、なぜなら・・・」と表現すること
の3点を、講義で学んだ概念を活用して**6枚以内**で説明する

- 1枚目のスライドには、氏名・学生番号などを明記する
- 締め切りは、10月25日(木)20時。Bb9経由で提出する
- グラフィック的にも美しく簡明なスライドを作成すること
- 評価のルーブリックを参照すること

高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性（案）

平成28年7月19日
教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

科目の特徴

○持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目

○グローバルな視点から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視点から防災などの諸課題への対応を考察する科目

○地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現行地理A科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

資質・能力

社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせて右の資質能力を育成

○地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解、地理に関する情報を効果的に調べまとめる技能 など

○地理に関わる諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的

持続可能な社会づくりに求められる地理科目

に考察したり、地域にみられる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 など

○持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 など

新必修科目

「地理総合」(仮称)

(1) 地図と地理情報システムの活用 GIS

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう、地理を学ぶ意義等を確認するとともに、地図や地理情報システム(GIS)などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力 グローバル

ア 生活・文化の多様性と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った、世界の多様性のある生活・文化について理解する。

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築 ESD

ア 自然環境と災害対応 防災

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや、そこでの防災対策について考察する。

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

⇒生活圏の課題を、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え、持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究する。

高等学校学習指導要領における「歴史総合（仮称）」の改訂の方向性①（案）

特
科
目
の

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目

○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

○歴史の大きな転換に着目し、単元の基礎となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

平成28年8月1日 教育課程部会
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現代的な諸課題につながる歴史的な状況(例)
<a 自由と制限><b 富裕と貧困><c 対立と協調>
<d 統合と分化><e 開発と保全> など

学習内容
の
焦点化

●歴史の扉～歴史をなぜ学ぶか、どう学ぶか～(例:歴史と現在～現代的な諸課題)

●18世紀後半～現在

・産業社会と国民国家を形成する動きがみられ、社会が大きく変化しはじめた。

●近代化と私たち～社会構造の変化を考察するために

【単元例】

- ・結び付く日本と世界
- 産業社会の到来、政治の変革
- 日本の改革、アジアやアフリカの変容など
- (まとめ)歴史と現在①～近代社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～bなどを中心として

- ・日本・世界はどのように結び付いたか
- ・工業化と政治変革は何をもたらしたか
- ・日本、アジアやアフリカはどのように変化したか
- (まとめ/基軸となる問い)社会の近代化は何をもたらしたか など

●19世紀後半～現在

・大衆の参加の拡大が社会全体の在り方を規定するようになりはじめた。

●大衆化と私たち～個人・集団と社会との関わりを考察するために

【単元例】

- 大衆社会の形成、社会運動の高まり
- 国際紛争と国際協調
- 大戦後の世界・日本など
- (まとめ)歴史と現在②～大衆社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～cなどを中心として

- ・なぜ政治参加と文化活動が拡大したか
- ・なぜ戦争がすべての人々を巻き込むものになったか
- ・大戦を経て、どのように社会は変わったか
- (まとめ/基軸となる問い)社会の大衆化は何をもたらしたか など

●20世紀後半～現在

・人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて一層流動するようになりはじめた。

●グローバル化と私たち～持続可能な社会を展望するために

【単元例】

- 多極化と地域統合
- 地域紛争と国際秩序
- 世界とそこの中の世界
- 日本
- (まとめ)歴史と現在③～グローバル社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～eのいくつかから

- ・冷戦構造の変化は何をもたらしたか
- ・冷戦終結後も、なぜ地域紛争は続くのか
- ・日本は国際社会にどのように関わってきたか
- (まとめ/基軸となる問い)国際社会のグローバル化は新たに何をもたらしたか、あなたはどんな日本/世界を求めたいか など

取り上げることが考えられる題材

…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義(代議制民主主義)、資本/社会主義、明治維新、国民国家、国民文化、政党政治、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術(ICT)…など

歴史の学び方(例)

○社会的事象の歴史的な見方・考え方を
用いて学ぶ方法(例)

・時期、推移や変化に着目して、

・比較して相違や共通性などを明確にし、
・因果関係など事象相互の関連性に留意して、

⇒事象の意味や意義、特色や相互の関係を多面的・多角的に考察するなど

*「近代化」「大衆化」「グローバル化」といった近現代の歴史の大きな転換に着目する際には、欧米等特定の地域の動きやそれらの動きが歴史に与える影響のみに着目することがないよう留意する必要がある。

* 考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定することが考えられる。

* 各単元の導入において、「現代的な諸課題につながる歴史的な状況」を踏まえた単元の全体構想を示すことが考えられる。

* 「近代化と私たち」に例示した「結び付く日本と世界」では、近代化の前の各地域の状況について、例えばアジアを例として日本と世界の商業や交易に触れ導入とすることが考えられる。

* 上記(まとめ)は、中学校までの既習事項を主に活用しながら、歴史の大きな転換が現在とどのように関わっているかを考察する単元として構成することが考えられる。